



TITLE:

稀少種キヨヒメクラゲ(有触手綱,
カブトクラゲ目, キヨヒメクラゲ科
)の白浜町沿岸への最近の出現

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 稀少種キヨヒメクラゲ(有触手綱, カブトクラゲ目, キヨヒメクラゲ科)の白浜町沿岸への最近の出現. 南紀生物 2014, 56(1): 72-73

ISSUE DATE:

2014-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/189271>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

稀少種キヨヒメクラゲ（有触手綱，カブトクラゲ目， キヨヒメクラゲ科）の白浜町沿岸への最近の出現

久保田 信*

Shin KUBOTA: Recent appearance of a rare ctenophore *Kiyohimea aurita*
(Tentaculata, Cydippida, Kiyohimeidae) at Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

はじめに

キヨヒメクラゲ *Kiyohimea aurita* KOMAI & TOKIOKA, 1940 は、1939 年から 1940 年にかけて和歌山県白浜町で採取された数個体をもとに原記載がなされた (KOMAI & TOKIOKA, 1940)。それ以降、長期にわたり世界のどこからも確認・報告がなされなかったが、2004 年 2 月初旬に 64 年ぶりに原記載地で再発見されたものの、その捕獲に失敗し正式な記録がなされなかった (久保田, 2006)。しかし、2008 年 1 月に長崎県佐世保市俵ヶ浦町で 7 個体が採取され、そのうちの状態の良好な 3 個体が原記載以来 68 年ぶりに世界で 2 例目として正式に記録された (久保田ほか, 2008)。その後も本種は佐世保市の上記の場所で、2009 年 12 月以降より冬季に繰り返し再採捕され、九十九島水族館では飼育展示もされ、成長や行動に関する知見も得られた (秋山ほか, 2010)。今回、原記載地の白浜町で再び出現した 1 個体の写真撮影に成功したので報告する。

材料と方法

和歌山県西牟婁郡白浜町瀬戸漁港で、過去約 20 年間、ほぼ毎日実施している定点観察で、出現したクラゲ類をその種類ごとに数をカウントしている。2014 年 1 月 16 日に非常に稀な本種を 1 個体発見した。その個体は岸壁より離れた箇所では浮遊しており、30 分経過しても岸壁に近寄ってこないため、捕獲はできなかった。ただし、漁港に係留中の小型漁船に乗せてもらい、その個体にできるだけ近づいてデジタルカメラで写真撮影を行った。

結果と考察

キヨヒメクラゲはこれまでの記載通り、無色透明の扁平な体で種の特徴である 1 対の三角状突起が体の先端から突き出ているのが今回の個体でも確認できた (図 1)。本種の本記録は白浜町では 3 例目となる。しかし、本個体では口の周りに張り出す 1 対の袖状突起は欠失していた。脆弱な体なので、何らかの理由でそこが傷み、とれたのであろう。本個体は三角状突起から口までの長さが 8 cm ほどであった。長崎県で 2008 年に採取された個体でこの値の最大値が 8 cm であったが (久保田ほか, 2008)、今回の個体もこれとほぼ同じ大きさであり、よく成長している個体と推定される。これまでに記録された本種の最大個体は佐世保産のもので、三角状突起から

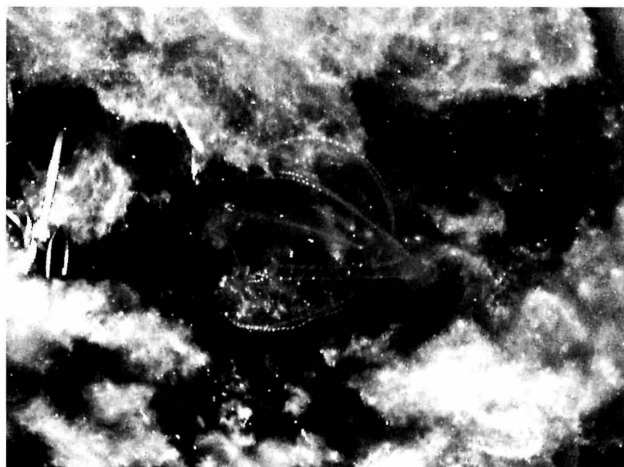


図 1 和歌山県西牟婁郡白浜町瀬戸漁港に出現したキヨヒメクラゲの大型個体 (2014 年 1 月 16 日現場撮影)

* 〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459

京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所

Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama-cho 459, Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan

e-mail: kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

口までの長さは 8.8 cm に達する（秋山ほか, 2010）。

近年、本種は静岡県駿河湾でも稀少種として初確認された（朝日新聞, 2014）。従って本種は世界で日本の 3 箇所だけで見つかったことになる。なお、アメリカの太平洋沿岸に生息する近縁種のウサギクラゲ *Kiyohimea usagi* MATUMOTO & ROBINSON, 1978 (LINDSAY, 2006; 藤倉克則ほか, 2008) は深海性であることから、キヨヒメクラゲも本来は深海に生息しているのかもしれない。日本の沿岸のいずれの 3 箇所でも、本種が冬季の水温の低い時期に限ってに稀に出現するのはそのためなのかもしれない。

引用文献

秋山 仁・堀之内詩織・山崎悠介・辻田明子・久保田 信. 2010: わが国で確認されたキヨヒメクラゲ（有触手綱, カプトクラゲ目, キヨヒメクラゲ科）の飼育と観察および最大個体について. 日本生物地理学会会報, 65, 129-134.

朝日新聞（静岡版）. 2014: 希少クラゲ駿河湾で撮った. 1 月 7 日付.

KOMAI, T. & T. TOKIOKA. 1940: *Kiyohimea aurita* n. gen., n. sp., type of a new family of lobate Ctenophora. Annot. Zool. Japon., 19 (1), 43-64.

久保田 信. 2006: 泡と消えたキヨヒメクラゲ. In 宝の海から 白浜で出会った生き物たち, 50-51, 紀伊民報, 田辺市.

———・秋山 仁・山崎悠介. 2008: キヨヒメクラゲ（有触手綱, カプトクラゲ目, キヨヒメクラゲ科）の第二番目の記録. 日本生物地理学会会報, 63, 129-131.

藤倉克則・奥谷 喬・丸山 正 編著. 2008: 潜水調査船が観た深海生物—深海生物研究の現在. 486 pp., 東海大学出版社, 神奈川県.

LINDSAY, D. L. 2006: 相模湾に出現する中・深層性刺胞動物ならびに有櫛動物の目録—潜水調査船と無人探査機によって採集された種類（1993-2004 年）. 日本プランクトン学会報, 53 (2), 104-110.